

書籍仕入れご担当者 様【ジャンル/歴史、社会】

日本人は過去の感染症とどうつきあってきたのか。
その智恵も歴史にたずねた本です!!

FAX: 092-726-9886

感染症と日本人

長野 浩典

定価2100円+税 四六判・256頁
ISBN 978-4-86329-218-5 C0021

【12月中旬刊】

◆目次から◆

天然痘、コレラ、
スペインかぜ、ハンセン病、
そして新型コロナウイルス。
感染症=伝染病の流行があぶり出
すものを見極める。

- 第一章 天然痘と種痘 (絶望と「歎び」)
疱瘡神・疱瘡祭・錦絵/天然痘根絶の教訓
- 第二章 明治10年のコレラ流行 (戦争と感染症)
コレラの日本初上陸/千葉県のコレラ一揆
- 第三章 明治12年のコレラ大流行
(「文明」と「蒙昧」のあいだ)
別府温泉と感染の拡大/
コレラ祭という伝統的民俗儀礼
- 第四章 スペインかぜ「猖獗」なり
(しょうけつ)
(パンデミックの現実)
スペインかぜのウイルス発見/多難な1918年
- 第五章 ハンセン病 (偏見・差別・隔離・隠蔽)
高群逸枝がみたらい者/
四国の浮浪らい(「乞食遍路」)
- 終章 新型コロナウイルス感染症
(コロナ危機でみえたこと)
格差と貧困と感染症/「1918」と「2020」

感染症とどのようにつき合うか、感染症と戦争、感染症と衛生行政、感染症と差別、感染症と貧困などの諸問題は、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下にあるわれわれが、乗り越えなければならない諸課題でもある。
(本書「まえがき」から)

〈著者の横顔〉 長野浩典 (ながの・ひろのり) 1960(昭和35)年、熊本県南阿蘇村生まれ。熊本大学大学院修了(日本近現代史)。元大分東明高等学校教諭。著書に『街道の日本史 五十二 国東・日田と豊前道』(共著、吉川弘文館)『ある村の幕末・明治』『生類供養と日本人』『放浪・廻遊民と日本の近代』『西南戦争民衆の記 大義と破壊』『川の中の美しい島・輪中 熊本藩豊後鶴崎からみた世界』(以上、弦書房)がある。

[FAX: 092-726-9886]

地小出版 流通センター 取扱品 書店・帖合 ご担当者様	冊	感染症と日本人 定価 2100円+税 ISBN 978-4-86329-218-5
	冊	川の中の美しい島・輪中 熊本藩豊後鶴崎 からみた世界 定価 2000円+税 ISBN 978-4-86329-199-7
	冊	西南戦争 民衆の記 大義と破壊 定価 2200円+税 【2刷】ISBN 978-4-86329-163-8
	冊	放浪廻遊民と日本の近代 定価 2200円+税 ISBN 978-4-86329-143-0
	冊	生類供養と日本人 定価 2000円+税 ISBN 978-4-86329-112-6
ご注文日	弦書房 Genshobo	〒810-0041 福岡市中央区大名2-2-43 ELK大名ビル301 TEL:092-726-9885 FAX:092-726-9886 URL http://genshobo.com/ e-mail books@genshobo.com